

# 青森駅を中心としたまちづくり 概要版

～ 鉄道と街を育み 市民の心を元気に～

---

平成21年12月  
青 森 市



# はじめに

---

## □ 検討の目的

- 新幹線開業による交通環境の変化を踏まえ、多くの人が集う青森駅の特性を活かすことで、まちに新たな賑わいを創り出す必要がある。
- 新幹線開業後を見据えた青森駅及び周辺のまちづくりについて、地区の課題や求められる機能等について市民と共通の認識のもと、市の取り組み姿勢等の基本的な方向を示す。
- 中期目標を北海道新幹線(仮称)新函館駅開業時とし、以降は長期的な課題として整理する。

# 青森駅周辺地区の現況



## □ 公共・公益施設の立地

- 青森駅、青函緑地、八甲田丸、アウガ(市民図書館等)、駅前公園、地下駐車場、市民ホールなど
- 新幹線開業に向け文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」、駅前広場リニューアル整備を実施中

## □ 利用状況等

- 中心市街地人口は増加傾向
- 青森駅乗降客数は横ばい(約16,000人/日)
- 他は減少傾向にある施設が多い

# 青森駅周辺地区への市民意見

延べ意見数  
272件

- あおもり市民100人委員会
  - 平成21年10月26・27日(2日間)
  - 延べ86名が発表又は書面提出
- 広報あおもり、ネット等での意見
  - 平成21年11月1日～14日(2週間)
  - 12名が郵送、eメール等で提出
- 多かった意見等
  - 駅舎の改修(23)、無料駐車場(21)、空き店舗の活用(16)、東西連絡通路・道路(13)など



# 市民意見の総括(その1)

---



- 青森駅周辺地区への期待
  - 多くの市民が本地区を中心としたまちづくりが必要と認識
- 来街利便性の向上
  - 郊外SCと同様に時間を気にせず回遊できる交通アクセス
- 商店街の振興
  - 賑わいを取り戻すため、空き地、空き店舗等の既存施設を工夫してまちづくりへ活用すべきとのアイディア多数
- 新たな賑わい機能の導入期待
  - 若者・高齢者・親子連れ、観光客等様々なニーズへ対応する新たな賑わい機能の導入や更新

# 市民意見の総括(その2)



- 青森駅の機能更新
  - 多くの市民が駅をまちの顔と認識し、その建替えを望む声多数
- ウォーターフロントの有効活用
  - 景観拠点、憩いの場等の魅力ある空間と認識され、新たな賑わい機能や既存施設を有効活用するアイデア多数
- 東西市街地の一体化
  - 駅の移転等により、駅周辺地区の往来を増やし、賑わいを創り出す手段として、鉄道による分断解消への期待
- 西口周辺整備への期待
  - 賑わいの乏しい西口の活性化がキーポイントと期待

# 課題 一駅と社会環境の変化



## □ 明治～戦前

- 鉄道が都市生活を支えてきた時代

## □ 高度成長期～今日

- モータリゼーションの進展により都市機能が郊外化
- 賑わい減少への負のスパイラル

## □ 将来へ向けて

- 環境負荷の小さな公共交通利用へシフト
- 少子高齢化社会へ対応し、地域・市民が駅・鉄道を支えあっていく意識が必要

# 課題 一新幹線開業による青森駅への影響

---

- 一部の市外・県外客の交通動態の変化
- 新幹線開業による交流人口の増加
- 青森駅は観光客等を迎える市の顔
  - 新青森駅は玄関口としての機能特化
  - JR接続列車等(在来線)の円滑な乗り継ぎ
- 青森駅は市民生活と密接な交流の場
  - 駅利用者の多くは通勤・通学
  - 青い森鉄道線の都市内交通機関化





# 課題 一 鉄道による市街地分断

---

- 分断による市街地特性の不均衡の発生
  - 快適性・バリアフリー性へ配慮した東西を結ぶ連絡路
  - マイカーを含めた駅東西地区へのアクセス快適性
  - 駅前のポテンシャルを発掘
- 鉄道施設の再編は長期的な視野で検討が必要
  - 駅には列車運行上必要な鉄道施設(入換線)
  - 北海道新幹線開業時の状況変化
- 鉄道の特殊性・専門性を踏まえ、時機を的確に捉えたまちづくりが必要

# 課題 一駅への市民ニーズの多様化

---

- 駅のバリアフリー化(エレベータ設置等)
  - 東北の県庁所在都市の中で最も老朽化
  - 国の基本方針「1日5000人以上が利用する駅において平成22年度までにバリアフリー化」
- 駅と都市機能の複合施設化
  - 首都圏で広がる駅ナカビジネス(例:大宮駅)
  - 市民生活に関するサービス機能との複合化
- 駅を移動の通過点としてではなく、情報力を高め、ポテンシャルを引き出し、中心市街地活性化へ

# 課題 一駅と港とまちの連携

- ウォーターフロント地区 / 都市観光フィールドの形成
  - ワ・ラッセ、八甲田丸の利活用
  - 青森の地域資源を活かし集客魅力を高める
- 商店街 / 既存ストックの活用
  - 観光客や住まう市民をターゲット
  - 商業のみならず歴史・文化・芸術等多様なニーズへ対応
- 賑わいの連鎖による持続的な活性化
  - 個性的な界隈空間など
  - 関係者の連携と協働



# 青森駅を中心としたまちづくりの方向等

- コンパクトシティ及び中心市街地活性化の推進は、市政の重点課題
- 中心市街地活性化のトリガー（先行）プロジェクトとして位置づけ
  - 青森駅周辺地区は都市の顔（市民意見）
  - 鉄道と街の賑わいをプラスの連鎖へ導くことにより、持続的・自律的な再生へ

ビジョン

～ 鉄道と街を育み 市民の心を元気に～  
あおもり 駅まえ 街なか ルネサンス（再生）

# まちづくりの方向－5つのコンセプト

---

## 1. 多様なアクセスの快適性を高める 交通のまち

(多様なアクセス) 鉄道、バス、マイカー、二輪車などの地区内外からの交通手段や、移動のしやすさ

## 2. 駅・街・港がひとつになる 回遊のまち

(回遊) 来街者が用事のついでに複数に立ち寄る街歩き・往来

## 3. 駅と都市機能の融合による にぎわいのまち

(都市機能) 文化、教育、保健、医療、福祉、商業等の都市生活に必要なサービス提供

## 4. 多彩な人と人が出会う 交流のまち

(多彩な人) 観光、ビジネス、通勤、通学、買い物などの様々な来街動機を持った老若男女

## 5. 青森の個性・魅力が集う 文化発信のまち

(個性・魅力) 「青森らしさ」「青森ならではの」を感じることもできるモノ、コト、ヒト

# 今後の展開

## 青森駅を中心としたまちづくり基本計画の策定

---

- 青森駅を中心としたまちづくりの実現を図るため、JR東日本と協力し、自由通路や西口周辺等を含む基本計画を策定



# 今後の展開

## 青森駅のバリアフリー化等の推進

- 全ての人にやさしい青森駅の実現に向け、JR東日本等と連携し、駅の段差解消等のバリアフリー化を推進



# 今後の展開

## 青森駅周辺地区への都市機能の再配置

- 多様なニーズへ対応し、まちの求心力を高めるため、本地区へ公的施設を含む都市機能の再配置・集約化

(参考) 建築後30年経過している主な公的施設

- 市役所庁舎(1956年)
- 県庁舎(1961年)
- 勤労青少年ホームサンピア(1967年)
- 中央市民センター(1969年)
- 働く女性の家アコール(1972年)
- 市民体育館(1977年)
- 急病センター(1978年)
- 市民美術展示館(1979年)



# 今後の展開

## ウォーターフロントの利活用促進

---

- ウォーターフロント地区での魅力的な賑わい空間を形成するため、多面的な機能導入を促進



# 今後の展開 アウガの活性化に向けた支援強化

- 駅周辺地区の賑わいをより高めるため、核的施設であるアウガの再生に向けた支援強化



# 今後の展開

## 八甲田丸の保存・活用の検討

---

- 本市発展の歴史・文化的遺産である青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸の活性化に向け、保存の意義と役割を踏まえた、今後のあり方について検討

